

第一次ベビーブーム期に誕生した「団塊の世代」が75才以上、4人に1人が後期高齢者となり、今まで「国を支えてきた側が給付を受ける側になる」超高齢社会を迎える2025年まで6年余りとなりました。社会保障と税のバランスが国の課題となっている今般、介護と医療の連携が重要となっており「医療や介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で安心した生活の継続と、その地域で人生の最後を迎えることができる環境を整備していく」ことを指針としています。

その中で私たち介護支援専門員は病気と共存し、生活の質の向上を図りながら在宅生活を継続できるようなケアプランを提供していきます。このたび、医療ニーズを併せ持つ重度の要介護者や認知症高齢者が増加する中で専門性のある介護支援専門員を4月より配置することになりましたので紹介いたします。

在宅で生活される高齢の方々が、安心して暮らせる様にお手伝いをさせていただきたいと思います。経験を活かして頑張ります、よろしくお願いします。



菊地七重 (きくち ななえ)

看護師歴 30年

室蘭市地域包括支援

センター母恋勤務 5年

- 介護支援専門員 平成18年取得（当事業所兼務経験あり）
- キャラバン・メイト養成研修修了
- 認知症サポーター上級者育成ステップアップ講座指導者養成研修修了
- 認知症地域支援推進員として活躍